

武蔵野女大短大 ○高橋尚美 奥隅路子

〔目的〕 ソーピングの効果は、繊維表面に付着した染料を除去することにより洗たく、摩擦に対する堅ろう性を向上させる。また、繊維内の染料の色調も変化すると一般には言われており、従来はソーピング剤として石けんが多く用いられていた。本研究では、ソーピング剤と色彩・染料の脱落量・摩擦堅ろう度などについて基礎的な資料を得ることを目的とした。

〔方法〕 染料はインジゴ(CI Vat Blue 1)、ジブロムインジゴ(CI Vat Blue 3)、テトラブロムインジゴ(CI Vat Blue 5)を用いて各々、0.5%o. w. f.、5%o. w. f. で綿を染色した。ソーピング剤として水、市販洗剤4種用いた。(陰イオン系— 石けん、LAS: 蛍光増白剤配合、非イオン系— AE: 蛍光増白剤配合、蛍光増白剤無配合)

ソーピングにはラウンダーオメーターを用い、ソーピング時間は15分、30分、1時間、3時間、5時間の5種行った。ソーピング後の測色には、分光測色計を用いた。

〔結果〕 インジゴ0.5%o. w. f. ではソーピングにより、くすんだ色になるが、5%o. w. f. では、彩度の変化は非常に小さい。ジブロムインジゴ、テトラブロムインジゴ共にソーピングにより彩度は上昇し、鮮やかな色になる。また、ソーピング剤としては、蛍光増白剤配合の場合、彩度は最も上昇する。

ソーピングによる染料の脱落量は、ジブロムインジゴ、テトラブロムインジゴに比較して、インジゴが最も多い。湿潤試験による摩擦堅ろう度では、インジゴのソーピング効果が、ジブロムインジゴ、テトラブロムインジゴに比較して大きい。